

現代社会学専攻(修士課程)

現代社会コース



現代社会学専攻(修士課程)

現代社会コース

「現代」を読み解く視点を養い、
社会に活かせる問題解決力を磨く。



複雑で変化の激しい「現代」を見つめ、産業の多様化、テクノロジーの発達、情報化、国際化、高齢化といった現代社会の重要な諸問題に理論・実証の両面からアプローチします。選択科目には「現代社会問題領域」「社会学研究領域」「文化・スポーツ領域」があります。

地域創造コース

地域の新しい価値を発見し、
社会の発展に貢献できる力を養う。



地域が持つ資源・価値を洗い出し、地域が抱える課題を解決して持続的な発展に導いていくための施策について考察。地域のつながりや活力を生み出す「知」を追究します。選択科目として「地域創造学領域」「観光学領域」「開発・デザイン領域」を用意しています。

国際教養学専攻(修士課程)

国際コミュニケーションコース

英米の言語・文化・英語教育の理論を
実践・応用できる力を養う。



国際共通語としての英語の高度な運用能力と英語学、英文学、文化地理学の知識を修得。言語への考察を深める「言語学領域」、教育学や教授法を追究する「外国語教育領域」、異文化マネジメントを中心とした「海外文化・コミュニケーション領域」の選択科目を設置しています。

国際日本学コース

日本のことばや文化を追究し、
中国と日本および世界の架け橋になれる人材へ。



日本文化を世界との関わりのなかで国際的かつ学際的に研究し、日本文化の価値を発信できる力を養います。幅広い学修を通じて、留学生であっても高度な日本語の知識と運用力の修得をめざすことができます。

現代社会コース 講義一覧 (2019年度)

全研究科共通科目

- Academic English 特論

現代社会学専攻共通必修科目

- 現代社会学総論
- 社会調査法演習

現代社会コース専攻選択科目

- 社会学研究領域
 - 理論社会学研究
 - 家族社会学研究
 - 市民社会研究
 - 地域社会学研究
 - 消費社会学研究
- 現代社会問題領域
 - 組織社会学研究
 - 医療と社会研究
 - 社会と規範研究
 - 犯罪社会学研究
 - 科学社会学研究

- 文化・スポーツ領域
 - スポーツ文化論研究
 - 社会文化理論研究
 - コミュニケーション論研究
 - メディア社会学研究
 - 文化社会学研究
 - 表現文化論研究

研究指導科目

- 研究演習Ⅰ～Ⅳ
- 修士論文

現代社会コース 担当教員

- 上石 圭一 教授
- 蘭 由岐子 教授
- 藤吉 圭二 教授
- 森 真一 教授
- 加藤 源太郎 准教授
- 林 大造 准教授
- 足立 重和 教授
- 上田 滋夢 教授
- 三上 剛史 教授
- 内海 博文 准教授
- 富田 大介 准教授

(2019年12月現在)

ACCESS

交通アクセス・交通機関(電車/直通バス)



電車 掲載時間は目安であり、交通事情等により変更される場合があります。詳細は最寄りの交通機関までお問い合わせ下さい。

JR大阪駅	JR京都線 快速約12分	JR茨木駅
阪急大阪梅田駅	阪急京都線 特急約17分	阪急茨木市駅
JR京都駅	JR京都線 快速約27分	JR茨木駅
阪急神戸三宮駅	阪急神戸本線 特急約24分	十三駅
JR奈良駅	JR関西本線 大和路快速約42分	大阪駅
		阪急京都本線 特急約14分
		JR京都線 快速約12分
		阪急茨木市駅
		JR茨木駅



直通バス JR茨木駅と阪急茨木市駅から直通バスを運行。また、大阪モノレール宇野辺駅から徒歩でJR茨木駅直通バスのりばを利用できます。直通バスは大学構内まで乗り入れています。(所要時間約20分)



現代社会コース

斬新かつ ユニークな伝統をもつ 社会学に触れる

人間と人間の間を探究する社会学を軸に、社会的存在としての私たちが“今どうしてこのように生きなければならないのか”という現代性を究明します。この問いに導かれながら、標準的な社会学の理論—実証、基礎—応用の全領域を網羅しながらも、流動化する現代社会をとらえる挑戦的かつ説得力ある論理を紡ぎだせる人材を育成します。講義や演習はいずれも2~3名の少人数で、丁寧な教育指導を実施。指導の場においては院生たちとのコミュニケーションを重視し、常に活発な議論を展開しています。院生と教員が自由に交流しあい、刺激しあえる学問環境は、日本の社会学において斬新かつユニークであり続けた本学の伝統と言えます。本コースで培った高度な知識は、日本や中国において多彩な進路を切り拓く力となることでしょう。



MESSAGE

豊富な留学生受け入れ実績のある環境で 日本についての理解を深める

本研究科の特色は、専門分野についての深い学修はもちろん、他コースの科目履修を一定数必修としていることです。現代社会コース所属であっても、日本のサブカルチャーや地域創造などの科目を学ぶのしゅみは、外国人留学生にとって日本をより理解する契機となることでしょう。さらに「現代社会学総論」「社会調査法演習」を必修科目とし、社会学に

初めて触れる学生でもスムーズに研究に馴染めるよう配慮しています。本学には早期から留学生を受け入れてきた実績があり、サポート体制は万全です。中国語に堪能な教員もおり、母国語での相談も対応できます。ぜひ本コースで社会学を学ぶとともに、社会学を入口にして日本についての理解を深めてください。

研究科長 上石 圭一 教授



PICK UP RESEARCH 研究紹介

指導にあたるのは各分野の第一線で研究活動に取り組む教員。入学定員5名という少人数環境のもと、教員の手厚い指導を受けながら、学生個々が関心を持つテーマを研究し、修士論文の作成へつなげていきます。



日本と中国を知る社会学 新しい概念の構築にも挑戦する

これまでの社会学は、基本的に国家という単位で考察がなされてきました。しかしグローバル化が急速に進展する昨今、一つの国という枠組みだけでは説明できない現象もみられるようになってきました。日本社会を題材に企業や家族などの研究を行うことで、日本の社会や組織の特性を知るにとどまらず、中国との共通点を見いだすほか、中国の今後を予見する力を身につけるまでの発展が期待できるのが本研究です。また、理論社会学の醍醐味として新しい概念の構築があります。過去に創出された概念がすでに時代に合わなくなっているケースもあり、それを再検討することも必要な研究です。様々な社会学の調査結果を参照しながら、論理と証拠を積み上げて、新しいものの見方を発見していく研究の面白さを体験してください。とりわけ留学生の皆さんとは、日本人学生や教員とお互いの社会についての情報を交換し、ともに教え合い学び合いをしていきたいと思います。



歴史に埋もれた人類の知的営みを アーカイブズを通じて再生する

MLA (Museum, Library, Archives) は人類の知的遺産を集積・蓄積し、人々の利用に供する活動を行っています。本研究では、MLAが社会に対して果たしている役割を理解することを基礎に、様々な分野で人々が長期間にわたり積み上げてきた「社会における記憶と記録」にアクセスし、活用できる方法を検討します。MLAはあらゆる分野に及んでおり、研究テーマは学生の興味に沿って自由に選べます。ユーザーとして資料を使うだけでなく、過去の智恵を利用して、現在の人々はもちろん、将来にわたって活かすことをめざします。一例を挙げると、町おこしや観光振興への活用です。例えば、アーカイブズに保存されていた資料をもとに中断されていた伝統行事の再生を図り、それを町おこしの目玉にするなどの展開です。我々の社会には、古いというだけで埋もれている素晴らしい資産が数多くあります。それを発掘することは、まさに時代を超えた先人との対話です。



元プロ選手・代表選手、現役指導者らが 高度な研究を展開

スポーツは今や、国家や経済の枠組みのなかだけで動くのではなく、スポーツ自体がこれを超えた特殊性を持っています。現にスポーツは国家、民族、宗教を超えた存在として社会に定着しています。本研究では、既存の社会の中に存在するスポーツという視点と同時に、スポーツによって社会が存立しているととらえる独自の切り口のもと、スポーツにみられる社会秩序、社会統合からガバナンス論を展開しています。特色は院生の顔ぶれ。元プロ選手・代表選手、現役指導者など、スポーツ界の第一線で活躍した、あるいは活躍中の人材が結集しています。自らの現場体験で得た生きた課題の理論化に挑戦しています。研究成果を各団体・組織の課題解決や発展に活かすことができるため、スポーツ研究に関心をもつ若手人材のほか、現場経験者の参加を歓迎します。担当教員は豊富な国際的な現場経験と学術研究の融合から、世界中のスポーツ団体・組織に人脈を持っています。そのような学術環境を活かし、高度な研究に取り組んでください。



日本の医療をめぐる諸問題を研究し 中国の近未来を見通す

ハンセン病、血友病、薬害HIV/AIDSの患者から聴き取りを行った「病いの経験」に触れると、そこには患者・被害者という一面的な視点では語れない生活者として実存があることが理解できます。その認識を土台に、日本の医療制度や社会制度について多面的に研究します。現在、日本の医療保険制度は、高齢化の進展とともに岐路に立っています。その歴史的な経緯を振り返りながら、現在の問題点を明らかにするとともに今後のあり方について考察していきます。日本の医療をめぐる諸問題を研究することは、中国人留学生にとっては有用な知識となります。中国では2015年まで導入されていた一人っ子政策の結果として、これから急速に少子高齢化が進むことが確実視されているからです。日本における問題を研究し、中国の近未来を見通す視野を養ってほしいと思います。また、日中の医療には様々な相違点があります。そうした日中の制度比較も興味深い研究テーマとなるでしょう。